

春日町図書館 図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和6年11月4日(月) 14時～15時半
- 2 場所 春日町図書館 2階 会議室
- 3 参加者 利用者 19名
図書館 3名
(春日町図書館長、館長代理1名、書記1名)
- 4 テーマ 「地域とつながるこれからの春日町図書館」
- 5 配付資料 (1) 教育要覧(図書館の所蔵資料数、利用状況)
(2) 主な春日町図書館事業 5年度下半期～6年度上半期
(3) これからの図書館構想概要
(4) 春日町通信(11月号)
(5) feel me(7月号)
(6) 利用者懇談会アンケート
(7) 春日町図書館オリジナルしおり
- 6 次第 (1) 春日町図書館長挨拶
(2) 図書館職員紹介
(3) 図書館概要説明
(4) 懇談
(5) 春日町図書館長挨拶

春日町図書館利用者懇談会 会議録

1 春日町図書館長挨拶

私から、一言ご挨拶をさせていただきます。春日町図書館の館長を務めております田村と申します。日頃より地域の皆様、利用者の皆様には春日町図書館の運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。今回懇談会のテーマを「地域とつながるこれからの春日町図書館」に設定させていただきました。これまでも地域に根差した図書館運営を念頭に置き、様々な取り組みを通じて、地域の方々との関係を深めてまいりました。この懇談会では、みなさまからこれからの春日町図書館について、様々なご意見・ご要望をいただき今後の参考とさせていただきますと考えております。

直接ご意見を伺える今回のような機会は少ないので、ぜひ、和やかな雰囲気の中、色々なお話が伺えたらと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、今回の懇談会ですが、お時間を15時半までとさせていただきます。また、館独自では回答が難しい区立図書館全体に関することについては、光が丘図書館にその内容を伝え、後日、光が丘図書館と調整の上ホームページで回答させていただく予定です。また、宜しければ11月22日(金)に行われます、光が丘図書館での懇談会にご参加のうえ、質問をしていただければ、適宜回答があると思います。それではどうぞよろしく願いいたします。

2 図書館職員紹介

春日町図書館長、館長代理、書記

3 事業紹介等

- (1) 教育要覧抜粋の図書館の所蔵資料数、利用状況の紹介
所蔵資料数、利用状況等
個人貸出点数 43万7274点、個人貸出予約点数 13万3459点
対面朗読の利用時間数 406時間 会議室の利用件数 348件
ギャラリー利用日数 62日
- (2) 5年度下半期から6年度上半期の主な春日町図書館事業について
 - ・地域、関連施設との連携事業
 - ・練馬区との連携事業
 - ・ギャラリーを活かした事業
 - ・各種講座、読書支援事業
 - ・ハンディーキャップサービス事業
 - ・ボランティアとの連携事業
 - ・その他子供向け青少年向け事業
 - ・情報発信
 - ・学校支援事業

4 懇談

利用者：事前にモアタイムねりまの利用者に、独自のアンケートを取りましたので、その、発表をさせていただきたいと思います。

調査集計で、別紙アンケート集計結果より

・利用者年代 ・図書館の利用頻度 ・図書館の貸出期間について

・図書館の使いやすさについて ・図書館がこうなったら便利だと思う点の概要

これを受けて、私の意見としてはもっといろいろなジャンルのDVDを増やしてほしいと思います。また、図書館をあまり利用したことがないので、読むのが楽しくなるような本の紹介があったらいいなと思いました。図書館からレファレンスサービスというサービスがあるという回答がありました。モアタイムのアンケート調査の報告になります。以上で終わります。

図書館：今、モアタイムねりまの方よりアンケートについておはなしいただきました。図書館で不便を感じたことが特にないというのが嬉しいなと思いました。また、図書館がこうなったら便利だなと思うことで、DVDをもっと増やしてほしいというご要望につきましては、リクエストも承れますが、収集しているのは光が丘図書館ですので、そちらの事務扱いとなります。

利用者：ありがとうございます。

図書館：障がい者の方向けの郵送サービスというのが、ここ（資料）に書いてある通り、自宅まで郵送して、あとは郵便ポストから返していただけるというものです。また、こちらのサービスが受けられる方、対象になる方の規定があります。受付は春日町図書館でもできますが、登録は光が丘図書館になります。

また、おはなしをしながら本を読める空間ということで、グループ学習室という事業を、年に何回かこの会議室で行なっています。そこはおしゃべりを自由にしながら勉強をしていただけたらというところですので、もし、図書館だと静かにしなくてはいけないということで躊躇されるようでしたら、グループ学習室の期間に来ていただいて、おしゃべりしながらお勉強なりをしていただければと思っております。

あとは、本を読むのが楽しくなるような取り組みとして、毎月館内6か所でテーマ展示というものを行なっていて、そこで図書館のおすすめする本を並べています。そういう展示を月ごとに見ていただくというのもありますし、あとはデジタルサイネージの方でも『図書館員のひとり言』というコンテンツから、私たちがおすすめする本を紹介しております。こちらもぜひ参考になさってください。

レファレンスサービスについては、こんなことを知りたいと聞いていただければ、私たちがお手伝いをして、本のご紹介をしています。

図書館：はい。皆様ありがとうございます。それでは、ここまで説明させていただいた中で、ご質問等あればご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

利用者：蔵書ですね、12万4千ということで、閉架と開架の比率はどのくらいなのでしょう。あと、もうひとつ。全然話が違うんですけど、予約待ちのベスト10で『成瀬は天下をとりに行く』というのが1500件。何か対策をされているんですか。それとも、そのまま待ちになるのでしょうか。わかりませんが、何か対策とか考えておられるのか。

図書館：はい。ではまず閉架について。春日町図書館は閉架というそういう括りのものがなくて、開架で置き切らなくなってしまった本を、事務室の棚に置いているというような状態なんですね。なので、ここの資料というのは、割合といいますか、ほとんどが開架資料ということになります。

『成瀬～』ですよ。こちらは、蔵書数など今、はっきりした数字を把握していないんですけども、それなりの予約数になっておりますので。おそらく『火花』の時ですと、30冊くらい…それなりの蔵書があったと思うのですが。『成瀬～』の方もそれなりの所蔵を目指しております。

図書館：予約数に対して何冊購入するというのが決まっています、全体の予約を見て、区立図書館での蔵書数も決まるので、それに合わせて購入しています。

利用者：はい。以上です。

図書館：他には何かございますでしょうか。ご意見とか。

利用者：グループ学習室についてお伺いしたいのですけれども。先月利用したとき、大きなポスターが貼ってあって。こういうグループ学習室があるんだなということを知って知ったんですけれども。これはいつ頃から始めたのかということと、あと、利用は中学生という風に見た気がするんですけれども、年齢制限とかはあるのかということと、あとこれは利用者の方から、中高生の方からこういう部屋が欲しいと思ってできたのか。あるいは光が丘の方からこういうのを作ろうという風に、全体の図書館に。この間、光が丘に行ったときに、光が丘でもこれをやるというのを聞いたので。これは練馬区全館でやるのか、その辺をちょっと伺いたいと思います。

図書館：グループ学習室の初回は、昨年度の冬ですね。試験期間中に合わせて実施しました。そこを皮切りに始めまして、今年度になってからは6月と9月、次が11月とコンスタントに実施しています。対象とする利用者さんを、青少年にはしていますが、特にそれ以外の方はだめというわけではなく、人数は少ないですが、大人の方も利用されているのも見受けられました。担当校に試験期間中にこういう取り組みをしています、というご案内もしていますので、利用する方は中高生が中心になります。始めたきっかけというのが、春日町図書館のYAコーナー・青少年コーナーの席も少なく、全体的に勉強する場所が少ないのと、ラウンジで色々しゃべりながら勉強する中高生の方が多いので、その流れで、会議室で行えばそれなりにニーズがあるのかなという考えで始めました。

始めた当初はかなり利用がありまして、定員は20名で何日かにかけて行かない、常に満席といった感じだったのですが、6月に実施した時はちょっと利用が少なかったりとか。周知は毎回学校などにもしていますが、開催時期によって人の増減はあるのかなと感じています。

ただご要望は多く、親御さんからも問い合わせがあったりもするので、継続的に実施していこうかなというところです。

光が丘図書館も実施予定と聞いておりまして、コンセプトの中にある「多様なニーズに応える空間の創出」の取り組みとして、おしゃべりタイムですとかそういった場所の提供というものが、今後全館に普及していくのかなと思います。

利用者：春日町図書館はこの会議室、利用数とか対面の朗読数とか、こういうコミュニティ関係のイベントが多いようなんですけど。これは可能性があるなと思って。具体的には私がいた日経新聞を使って新聞ディスカッションが行われたという話なんですけど。写真を見ると割と年配の方が少数でされているんですけど、どういう方がファシリテーターでどういうお話をされたのか。これすごくて、やり方によっては、もうちょっと若い子を入れて、新聞を読まない子を入れて…で、SNSばかりの子とか。それとか本を全然読まなくて全部ネットから情報を得る子とか。それとか、最近の子は縦書きの本を読めないって聞いたことが。全部ウェブみたいに教科書も横書きですしね。なんか、そういうことを含めて、メディアとネット、ネット時代の新聞とか

本とかいうのが僕はテーマなので、すごくいいなと思ったので・・・はい。内容を。

図書館：ありがとうございます。この新聞ディスカッションというのは、ファシリテーターの方が趣味で行なっている事を事業にしました。その方の本職はファイナンシャルプランナーです。新聞ディスカッションという名目はこちら（図書館）で決めさせていただいて、当日の日経新聞を参加者にお配りして、何の前知識もなくその中で3分くらい読んだ後に、まず自分の気になる記事をあげて皆さんで話し合うという内容です。

募集人数に関しては、ファシリテーター1人に対して5人くらいが限度だと伺っていました。イベントの流れとしては、1人1人にお話を聞いて、付箋を使って意見を全部書き出して、その意見に対して他の参加者からも意見を募り、最終的にバラバラだったそれぞれの意見がつながるといえるものです。日経新聞に限らず、どんな新聞でも実施は可能ですが、ファシリテーターの方が職業柄、日経新聞を読むことが多かったため、日経新聞にしたと仰ってました。今回は大人向けでしたが、新聞をなかなか読まない中高生向けにもできますよというお話はいただいていますので、1回そういうのもやってみるのも楽しいかなと。

利用者：ちょっとだけ意見いいですか。

図書館：はい、どうぞ。

利用者：図書館の方は関わっているんですか。

図書館：図書館職員は議事録を書いています。

利用者：これは別に新聞の読者が面白がってやっても、その人の切り口であるものを全く否定するものではないんですけど。記者の立場から言うと、ネットと新聞と本とかそのへんが今大問題になっていて、私はクラストメディアリテラシーみたいなのをテーマに本を書こうと思って取材をしているんです。何かって言うと、普通の人、記者はいろんな情報が入ってくるんですね。ガセネタとかそういうものも入ってくるし、信憑性があるものも入ってくると。で、まず今の人、SNSで情報を取るんだけど、フェイクニュースみたいなのを信じて拡散しちゃったりしますよね。それでどうやって本当のニュースをひとつひとつ見極めるかっていうのは。あと書くときにあたって、書き方によっては誤解を招いたり、そのまま書きちゃったり、人の意見、一方的な意見を書いてって、そういうのが多いわけですよ。それですごくネットって乱れちゃってるので記者はそういうのを選別して、正しい情報をわかりやすく正しく書く。それも信頼できるソースっていう、例えばそういう基本を教えるんですね。そういうことは今、新聞記者だけじゃなくて、SNS自体は全員が新聞記者みたいなものなので、全員が似る。だから全員が記者のそのやり方で情報に接しないと生きていけない時代になったというのが僕の問題意識なんですよね。だから、例えば本当にこれは面白い話で、この中にもデジタルを活用して誰もが情報を得られるって書いてますけど気楽にいうと、なんかこう便利そうなウェブを見てやれって言うんだけど、この中

には本当に悪いやつが、それこそ闇バイトみたいなものもあるわけだよね。だからこういうものは、ぜひもっと本質的なもの、いろんなものがあるんですよ。ジャーナリストでやってもいいし、いいけどもなんかこのテーマって本をもっと読んでもらうとか、本から派生した本って実は書いてる人に直接話を聞いた方がよくわかることが多いわけです。自分でやってみてわかったんですけどね。本当に短くいつてくれるんだけど、その人のことを本当にわかろうと思うと読まなきゃいけないという本の位置づけみたいなのもあって。最後はある人にインタビューしようと思うと、その人の本を5冊ぐらい読むんですよ。だけど、書くときにはすごくわかりやすくその人のコメントを入れて書くんですけど、それにしても元の、やっぱりその本は読むことが必要だとか、いろんな本の効用もあるんで、なんか色々図書館でね、うん。要するに我々ものを書いたりする人間とは情報発信とか、その立ち位置とかで本当に協力できそうなので、イベントでね、別にボランティアでやりますから。なんかそういうのをね、協力を。

図書館：ありがとうございます。ぜひ。

利用者：書籍とは関係なくなってしまうんですけども、展示コーナー。今日も展示してあったかと思うんですけども。あとこちらの会議室ですね。こういったところの利用率と言うんでしょうかね。最終的には回転率になるんですけども、多分集計はそんなにとっていないので、月間で何パーセントとかそういうのはないと思うんですが、おおむねの数字で結構なんでうけども、教えていただけますか。

図書館：まずギャラリーですが、ギャラリーは春日町図書館にしかない設備でして、他の区立図書館にこういった広い展示スペースはないので、やはりここを使いたいという団体さんと、あとは区との共催事業も多いため利用率は高く、最近までギャラリーは来年の3月までは埋まっていた。ただ、税務署の展示をする予定のところが先方の都合で空いてしまったので、区民の方からのご希望がなければ、春日町図書館所蔵のレプリカの絵画を展示して、常に利用のある状態を心掛けています。次に、会議室ですが、先ほどご説明させていただいたとおり、348件というのは館事業で使っていない数です。例えば今日の懇談会は、この348件には含まれておりません。なので、毎日何かしら会議室の利用はありまして。何も無い時は、土日祝、夏休みの期間は曜日限らずここを解放して、お勉強のスペースとして使っているんですけども、春日町図書館は立地も良く、駅から近いということもあるので、会議室の利用もとても多いです。

利用者：これ、会議室はどんな目的で、例えば懇親会やるとかそういうのはだめなんですよ。要するにお勉強会なんですか。

図書館：いろんな目的で、ダンスとか歌とか。そういうのも大丈夫です。

利用者：そしたら地域の、例えば太極拳をやったり、何か座学やるとかそういうのもいいんですか。

図書館：大丈夫です。ただ、練馬区に所属している団体であるなど、利用条件はありますが、あとは、ここで何か食べたり飲んだりそういうのでなければ。

利用者：だめなんですか。飲食は。

利用者：お茶くらいはいいんですよね。

図書館：水分補給程度のお茶などは大丈夫です。

利用者：利用登録は必要ってことですか。

図書館：そうですね。最初に色々確認させていただいて。団体の住所が練馬区や、代表者が練馬区民か、ですとか、活動内容ですとか。一般の団体さんのほかに、例えば図書館事業、読み聞かせですとかおはなし会ですとか、そういうものに従事している団体さんは申し込みできる期間が、もう少し前からできるようになっています。

利用者：空き状況がどちらかで一覧できるみたいなのは今のところないんですか。

図書館：そうですね、空き状況はこちらにお問い合わせいただいて、お答えするという感じになります。

利用者：ちょっと関連してですけれども。この会議室ですけれども。これは貫井と南大泉とその分室は。これは会議室自体がないんですか。利用状況がゼロになっているんですけどね。

図書館：貫井は、会議室ではなくて視聴覚室だと思います。貫井はかなり大きい視聴覚室があって、ここよりももっと大きい。

利用者：それで332か

図書館：そうですね。

利用者：わかりました。

利用者：館利用が入っていないっていうのは、ここの春日町図書館だけじゃなくて、このデータそのもの、どの館もみんなそうなんですね。館利用は入っていない。

図書館：館利用は入ってないと思います。

図書館：会議室を使うときに申請書を書いていただくんですけども、その申請書を書かないで使っているものが一応館利用ということになっていて。なので、申請書を出していただいている数かなと思うんですけど。

利用者：共同事業ということで。ボランティアさんとの共同事業ということで、お子様向け、大人向けのおはなし会があるんですけど、共同事業っていうことは、図書館の方からご依頼があってボランティアをさせていただいているのか、その辺を説明していただければありがたいなと思います。

図書館：まず、子ども向けと乳幼児向けのおはなし会があります。毎週水曜日「おはなしいっぱい」で第3木曜日の「だっこでおはなし」というのがボランティアさんと一緒に行っているおはなし会になります。こちらからお声がけをしてというのは、もうずっと前からやっていることなので（わからない）。

利用者：おはなし会については、最初はおはなしの会として図書館でおはなし会をやりたい

ということをお願いしました。ここの開館前をお願いしてあって、開館と同時に始まりました。

利用者: 乳幼児向けのおはなし会の方は、練馬区の事業としてブックスタート事業というのがありまして、区内で生まれた赤ちゃんに絵本を渡して、絵本やわらべ歌で楽しい体験をプレゼントするっていう事業なんですけれども、2002年に練馬区で始まり、最初は保健相談所でやっていましたが、4か月の検診の内容がちょっと変わったことで、保健相談所でやるのがちょっと難しいということになって、図書館に会場を移したのが2004年です。それで、図書館に赤ちゃんが来るなんて、その頃は誰もが「えっ」という感じでした。でも、ブックスタート事業をこの部屋でやるようになって、帰りにママがベビーカーを押して図書館にきて子どもの本を見て帰る的なことだったと思います。それでその事業が始まった1年後くらいに、そのフォローアップとして赤ちゃん向けのおはなし会をやろうということになって始めたのが乳幼児向けの「だっこでおはなし」ということです。これはブックスタートのフォローアップ事業として必要であるということから始まった自然発生的なもので、ブックスタート事業自体は区の事業ですが、図書館が赤ちゃんを受け入れるということですね。春日町図書館は、平和台の次、2番手だったと思います。早かったんですね。その後、ぼちぼちとブックスタートのフォローアップでやっぱり必要だということで、全館で赤ちゃん向けのおはなし会をやっています。そういう経緯です。

利用者: 今のおはなしみたいに、どこぞの図書館で取り組まれた事業がめちゃくちゃ評判がよくて、みたいな横のつながりというか、情報共有というものはやられていらっしゃるんですか。

図書館: そうですね。練馬区の図書館は全部で指定管理が5社入ってまして。それで、会社同士の共有というのももちろんありますが、練馬区の横のつながりとしては毎月の会議でそれぞれが実施した事業報告などをして共有しています。

コンセプトに基づいて様々な取り組みをしていく中で、他の館がどういうことをして利用者さんからの評判が良かったかといった情報も必要ですので、全体で、練馬区の図書館を盛り上げていこうという感じで情報共有はしています。

利用者: わかりました。

利用者: それでつながるか。いいですか、ちょっとその流れで。ぼくは本当に一ユーザーなんですけど、この図書館の使い方として、もちろん仕事で使う資料を貸していただいたりとかっていうのにプラスして、ぼくのメインの使い方はCDなんですね。貸出点数などってありましたけど、多分練馬区のトップ5には入るくらい借りてる。1日3回くらい借りたりするんで、予約して借りてみたいなのだったりとか。結構前からCDを借りる人なんです。大体の使い方としては、ネットで予約して取り寄せてという使い方をしてるんですけど、ただちょっとブラウザバックするとホーム再送信のなんとかみたいになっていう風にされて戻っちゃうっていう。ちょっと使い方がいがかなくなっ

ていう部分と、登録されているアーティストを検索するのに、カタカナで登録されていること、アルファベットで登録されていること、全角・半角と、みたいにバラバラで、ヒットしないみたいな。在架してるのにヒットしないなど気があるんですよ。もちろんそれを既にわかっているの、あの手この手で調べてあるよねっていうのはわかるんですけど、全館でもし何か共有されてるとかってあったら。

多分それって各館が登録をいかにするかみたいところでやられているのか、システム会社さんかわからないですけど、そのへん統一していただいた方がユーザーとしては検索しやすくてというところがあります。

図書館：図書館も検索する時は、あの手この手で調べているのが現状です。

利用者：そうですね。

利用者：今年の冬、あれじゃないですか。OPAC、システム交換なんですよ。

図書館：そうなんです。

利用者：それでよくなる可能性はあるんですよね。

図書館：長いことお休みさせていただいての更新なので、利便性は向上すると思います。皆様からのご意見というのは、光が丘図書館に伝えていきますので、それを踏まえたリプレイスになると思います。

図書館：他に何かございますでしょうか。

利用者：これは図書館でできるかはわからないんですけど、今選挙権とか年齢が引き下げられて18歳からになってますよね。それで、選挙の時に宣伝でその議員さんとかが一般の方に向けて話しているのを、知的障害をもってすぐに理解できなくて。それで、高校生とか大学生とか障がい者の方に向けて、図書館の会議室を借りて何人かの議員さんと呼んで選挙演説とかっていうのは難しいんですか。そういう取り組みをしてほしいなって。

図書館：ご要望として承って、できるかできないかも含めて、光が丘図書館にも相談したいと思います。

利用者：わかりました。

図書館：確かにそういう政治などに青少年世代が関心を持つようなイベントをこれからしていきたいと思っています。グループ学習室もその一環なんですけれども、やはり青少年世代の利用がなかなか増えないので、いろいろ試行錯誤しております。

利用者：今ので、逆になんていうか、党派性とかね、例えば新聞だと中立性だとかあるんですけども、こういう場所って比較的自由なんですか。これはだめとか、こういう宗教がだめだとか。

図書館：それに付随してですが、図書館でもかなりの数のチラシを配布、設置することから、少し前にチラシ基準というのが全館で決まりまして。そちらの基準に準じて配布をしています。なので、どここの政党のものだけを置くとかはなかなか難しいかなと。

利用者：今の話ですと、選挙期間中を外して、あらゆる党派の人が同時に参加して、なんか

だったらできそうな気がしますけどね。

図書館：特定の政党ではなくて、ということですよ。

利用者：ここでやったら溢れちゃうと思う。

利用者：だけど、一応そういうのはありますよね。討論会とか？

利用者：そうですね、討論会というか、言っていることをわかりやすく。

利用者：じゃなかったら政治家じゃなくて評論家みたいな人を呼んでいただくとかでもいいんですよ。

利用者：そうですね。ありがとうございます。

利用者：そこについてちょっとだけ補足すると、うちの事業所はNPO法人なんですけど、そこは3年前に選挙をするってどういうことかということで、すべての区内の政党に声をかけて、ここねりを使って議員さんに来ていただいた。直接話を聞こうと。その時まだ（質問者は）利用者としていなかったの、そういう機会がね、民間だったら可能だけど、公共の場でそういうことができるということに、もうちょっとアクセスしていきたいのだと、そういう風に受け止めていただければ、ひとつの模索にはなるかなと思います。場所も狭いですし、やったら人が殺到してしまうとかっていう課題は出るけど、こういうところから発信するっていうのは、図書館の本来のあり方っていうか、そういうところにもきつと通ずることがあるから。そういうことを言ってくれたのだと思いますので、隅に置いておいていただけると。

図書館：はい。ありがとうございます。

利用者：言葉足らずですみません。

図書館：いえ。ありがとうございます。

利用者：あとは開催の仕方じゃないですか。対面だけじゃなくて配信にしちゃうとか。それだったら先ほどおっしゃっていた青少年世代で、その時間帯だったら中高生でも見やすいよね、みたいな感じでリマインドしてあげるとか。何かやり方がありそうな気が。

利用者：なんでしょうね。逆になんかね、ネットにしちゃうとまた変に流布しちゃうんで、これはここだけの話なんだよとか、オフレコなんだけどこうだよっていうのがあると、本当はちゃんとした情報がない、だけど世の中そういうもので、なかなか流布してる情報でっていうのは難しいんですよ。情報って本当に難しくて。

利用者：今フェイクかどうかを見破るのが難しいじゃないですか。

利用者：だから難しくて。それに、だから加担しちゃうみたいな形で言われちゃうと、館長さんが責任とらされちゃうわけですね。だからすごく難しいんですよ。

利用者：1回やってみればいいんですよ。

利用者：だからその観点はわかるんですけど、なんていうのかな、一種のテレビで放映するとか、新聞で発表するとかっていうのと似た概念なんです。ネットに出すっていうことで、僕らは必死にそれは何重にもチェックして、僕は1本記事書くと、デスク部

長なんかも3・4人見てようやくGOサインが出るんですよ。だから言いたいのは、そういうプロはそうやっているの、その出し方、あるものを公に出すっていうのは発表とか印刷物くらいに考えて厳密にそこまでやらなくてもいいものもありますよ。だからそのネットっていうのは、そういうのも全部考えてやらないと。個人がYouTubeでやるのも自由ですよ。だけど、ある程度責任があって、練馬・春日町図書館がやっているんだからっていうそのお墨付きみたいな感じで情報が付加された場合はやまいので、個人が、皆さんが自由にYouTubeで何を発信しようと自由ですから。ただ、春日町の絡み方だけは考えるといいかもしれないと思うんですけど。

図書館：わかりました。ありがとうございます。

図書館：他にありますでしょうか。

利用者：先ほどのチラシのことなんですけれど、他の図書館で自分たちの活動しているチラシを置かせてもらおうと思ったら、置く場所がまずないと。すごく依頼が多いので、区に関連しているチラシとか国ですとか東京都のチラシしか置けないって言われたんですけど。それで、その時に思ったんですけども、他の自分たちが活動しているものではなくても、他のいろいろな団体の活動とかも私は知りたいなと思って。それが地域の図書館に行ったら、いろいろな活動のそれを、その中から選択するのは私たちで。置いてあるといいなと思って。結構いろいろなチラシが置いてあるのはここねりの3階の共同推進活動課？だったかっていう、そこには結構いろいろな会のチラシが置いてあるんですけど、本当は地域の図書館にそういうコーナーがあるといいなっていう風に、断られたときに思ったんですけど、そこらへんのチラシの制限っていうのは、どんな感じで違うんでしょうか。

図書館：春日町図書館は耳より情報コーナーがありますが、スペースの問題で置くのが難しい館はあるかなと思います。基準として、1番優先順位の高いものが図書館に関わることで、あとは区に関わること、国とかです。あとは近隣の情報は、近隣の情報コーナーがあるのでそちらの方に置いています。

利用者：わかりやすいですね。

図書館：最終的には各施設長の判断という感じになっておりまして、基準はありますが。なので、スペースの問題もあり、各施設で受け入れるものとそうでないものが出てきてしまうのかなと思います。やはり来館された方が情報を得るために、チラシコーナーはもちろん、掲示板などもご覧になっているので、情報発信の場としてはいろいろなものを置いた方がいいかなとは思っています。こども向けとか、一般・暮らし向けとか。あとはセミナー関係と分けて置いています。

利用者：わかりやすいですね。やっぱり館によってはわかりにくい。わかりやすいところとわかりにくいところがあるっていうのはある。

図書館：他にありますでしょうか。

利用者：やっぱりこれは発信のうちに入るのかもと思うんですけども。私は町会やってるん

ですけどね、町会というか春日町の町会で組織部が妄想会議っていうのをやってるんですよ。その妄想会議でどんな春日町にしたいかっていうので戦争体験を傳承したい、伝えたいっていうようなものがあつたと思うんですよ。それで、いろんな話はしたんですけども、いわゆるすぐに思い浮かぶのが語り部ということですけどね、戦争体験した人の。この春日町図書館で、もしそういった催し物があつたとしたら、どういうものになるんだろうと。確かに語り部の方はご高齢ですけども、この春日町にもおられるんですよ。広島で被爆された方。個人的には知っているんですけども。ただ、難しい話を子どもたちを集めてやって、中にはもうあくびするような子どもはいないかなとか心配になってしまつて。だから形を変えて何とか子どもたちにそういったものが理解できるようなものになっていくことはできないかなと。だからそれは果たして青少年向けの授業に入るのか、学習講座に入るのか、はたまたこの10年後の構想にね“交流が生まれ新たな知が創造され幅広い年代の人々が集まり”ってあるじゃないですか。だからすごく大事なことだと思うんですよ、戦争のことなんかを知っていくっていうのはね。8月の末あたりにギャラリーで戦争展・原爆展をやつたと思うんですよ。9条の会の人たちかな。個人的には知ってるんですけども、この図書館がせっかく春日町にあるのですから、地域のある種の拠点として、そういったものを学習する場になっていければいいかなと思うんですよ。ただ、この戦争をどう伝えていくかっていうのはちょっと難しすぎてね、私もちょっといいこと言えないです。そのあたり、どなたか名案があれば教えてください。

利用者: 皆さんの話を聞いて、ちょっと妄想会議で話したところの振り返りであれですけど、さっきの戦争もありますけど、政治家の話とかもそうかもしれないです。情報があまりにも一般論過ぎて、練馬区とか今住んでる人に役立つ情報に翻訳するっていうのが、あんまり仕組みがない気がしているんですよ。妄想会議の時にも、じゃあ防災の時、誰がこの土地で避難することを一番知ってるのっていつてそれを変換することも実はあんまりなかったり。練馬区さんに聞いても、一般論は言ってくれるんですけど、今ここの春日町とかこの辺に住んでる人が、避難するときどうすればいいのかってちゃんと答える人って実はいなかったり。多分さっきの政治家の話もそうかもしれないし、戦争の話ももうちょっとローカルな、こっちで戦争体験した人がどういう生活したかってするともうちょっと自分事になると思うし、いろんな意味で、掲示板とかの情報もあるんだけど、結局自分らにどう使えるのかみたいな話に変換できないので、図書館の機能としてそういう情報をちゃんと自分が受け止めるスケール感に翻訳・通訳してくれるみたいなのがあつてもいいのかなと思いました。はい、意見です。

図書館: 戦争の体験を語ってくださる方がいるとおはなしをいただいております、妄想会議でも皆さんの意見を聞いたりして、実現できたらなというところで止まつてしまつてはいるんですけど、興味を持っていただくきっかけみたいなところを図書館か

ら発信していけたらなと思っています。それには地域の方と協力して、私たちだけでは考えの及ばないようなこととか色々なアイデアをいただいて、地域全体で課題解決がしていけたらなと思います。戦争を体験された方っていうのもどんどん少なくなってきたりして、実際のお話を聞ける機会も本当に少なくなっているんで、聞くということ自体が貴重な経験だと思いますし、ぜひそれは皆さんのお力をお借りして、いい形で実現ができたらなと思いますので、よろしく願いいたします。

利用者: つまらない質問で申し訳ないんですけど、今の場合にちょっとよくわからないのは、例えば妄想会議主催っていつて場を貸すのが図書館という場合と、図書館共催で図書館もコミットする感じの2つあると思うんですよ。どっちもありなんですよ。だから、場合によっては妄想会議主催の語る会で、その代わり広報はしてくださいよ、ってするのかわからないけど、妄想会議の方でやるとかね。全部春日町図書館主催共催ってやるとすごく難しくなりますよね。だからその辺どうなんですかね。

図書館: そうですね。もちろんこの前共催させていただいた城址公園のおはなし会ですとか図書館が出張して共催というのもありますけど、一番関われることは広報かなと思います。図書館はいろんな方がいらっしゃるんで、こういうことやりますよ、だとか、地域での取り組みや地域でのイベント情報を発信することが、図書館として一番できることかなと思ってまして。それでこの前のリユースカフェの事業でも、図書館で知ったという方、チラシを図書館でもらったという方が多かったので、これからも地域の取り組みは色んなツールを使って発信し、アピールしていけたらなと思います。

利用者: 共催までいなくてもいいってこと。

図書館: 共催までいなくても、そういう広報の場面で部分的にでも協力させていただければ、どんどん図書館を活用していただきたいなと思ってまして。デジタルサイネージも、小さいお子さんが触っていたりするのも見受けられるので、そこに地域の情報ですとか、そういうものも多くのせていけたら、情報のコンテンツとして楽しいかなと思っています。

利用者: ちょっといいですか。この城址公園の出張おはなし会っていうのはサービスセンターの方が一緒に関わっているんですか。

利用者: そうですね。出張おはなし会に関しては、まず練馬にあります子育て団体さんから公園の中でリユース会、子どものおさがりですね、例えば洋服だとかおもちゃだとか本だったりっていうものを、今回行った中にはチャイルドシートなど様々あったんですけど、自分の子どもは大きくなって使わなくなってしまったけれど、まだまだ綺麗で使えるものをほかの方にお譲り、そのまま金品かからずお譲りしたいっていう活動を今まで室内でしていたんですけども、せっかく広いスペースができたので、青空の中でやりたいというお話がありまして、それを実現するためにほかに何か子育て世代でできることはないかという中で、私から、公園から館長さんの方にぜひ外

でおはなし会を、小さなお子さんたち親御さんたちが来るので、おはなし会をやっていただけないかとお話をした上で実現したものです。それで、図書館でどんなことができるかがわからないので、まずは関わっていただきたいのですけれどどうかというお話をしたら、まず図書館内のリサイクル本ですね。ここには置けないけれどもまだまだ読める本を無償提供していただくリサイクル市と、あとはおはなし会で紙芝居だったり、人形を使ったお話だとかっていうのを、10時から14時までの開催で、全体で1500人くらいの利用者が来るような会になりまして、これも終わってすぐに次はいつなんだという声が上がっています。実は私も都の施設、公園を管理している指定管理者の立場なんですけれども、やはり事業の計画があって、実際にはどれくらい前に計画を立てて一緒にできるのか。図書館や公園だけではなく、いろいろな地域が関わって、場合によってはひとつのコンテンツは公園、図書館だとか。ぐるぐるこの周辺をまわって何かをテーマにして楽しめるような事業だとかができる、より地域の方にとって、それこそ今度は区民館の館長様にもいろいろご協力いただきたいとか、おはなし会の方が今日いらっしゃっている、ぜひ公園で青空おはなし会をしていただきたいな、なんていうのがありましたので、時間的なお話だとかも聞けたら嬉しいです、今回のこのおはなし会に関しては私からお願いして実現した事業でした。話が長くなりましたが以上です。

図書館：事業計画についてお話がありましたので、改めてお答えしたいと思うんですけれど、来年度の事業計画につきましては、大体12月くらいから計画し始めて、最終的に決定するのが3月の半ばくらいです。ただ、事業計画になくても、お話をいただいた時点で、やれそうであればどんどんこなしていくという状況です。今後の予定としましては11月10日にリサイクルセンターでも本のリサイクル市を行ないます。あと11月8日にはヤマザキ館長に来ていただいて、今回は近隣の幼稚園・保育園の方を招待して人形劇をします。城址公園もやまかんちょうの人形劇も、最初事業計画にはありませんでしたが、実現できたら楽しそうだなというのもありまして、実施する運びとなりました。あとは、11月16日は春日町のプレーパークでおはなし会をします。

利用者：春日町町会のカネコです。毎月第3土曜日に春日神社で子どもの遊び場というか、プレーパークをやっております、無料で参加できるんですが、その時に参加していただける団体さん、今回は図書館さんがおはなし会をやっていただけるということで、場所を確保しまして、いつもヤマ館長に結構協力してもらって色々やってもらったりするんですけど、その都度色々なことをやっております、今回は焼き芋を焼くので、格安のお値段でお芋が食べれるということで。ちゃんとした産地のお芋なんですけど、焼くことになっていますので、今回の11月16日ですね、かなり人が集まるんじゃないかなと思っているんですけど。これも毎月第3土曜日やっていますので、もし何か、おはなしの会とか、参加していただければ。子どもの遊び場なので、本当に子どもが結構来るので、青空の下で、外でテントとか提供しますので、別にお金もとつ

たりしないので、自由参加なので、ぜひ出店したいっておっしゃればもうどうぞって
いう感じなんですよね。光が丘のペタンクさんと協力してやっていますので、それ
はもう本当に安心して参加できると思うんです。そういった形でもやっていますの
で、もちろん図書館さんとも随分いろんな街歩きイベントから始まりまして、ずっと
色々やっていますので、先ほど言われたチラシ等々も、春日町に関することだったら、
全然配ってあげても、くださればご協力いたします。春日町の掲示板とかですね。全
然使って大丈夫です。すみません、ちょっと長くなりました。

図書館：ありがとうございます。今回の懇談会のテーマが地域とつながる、なので、図書館
と皆様、皆様同士でもつながりができればいいなと思ってこのテーマにしました。そ
ろそろお時間ですが、これだけは言っておきたいという方がいらっしやれば。

利用者：質問です。練馬高松園の地域包括支援センターとの共同事業ってというのはどうい
うものなんですか。

利用者：練馬高松園地域包括支援センターのイケガミです。最後に、長くないようにど
うしたらいいでしょう。年間通して私たちは地域の高齢者の方、そして高齢者のご
家族の方たちの相談を受ける窓口です。練馬区内に27か所、皆様のお住まいの地域
で管轄をしております。練馬高松園は春日町全域、そして高松1丁目から3丁目の
高齢者の皆様の相談を受けています。そして高齢者の方の中にはとても元気な方た
ちもいれば、そうではなくて引きこもりがちなお外に出る機会が少ない方も多いん
です。そういう方たちに向けた外出の機会を促すために、出張型街角ケア、ケア
カフェというお茶を飲む会のようなんですが、運動を行なっていただいたり、フ
レイル予防の講座を開いたり、認知症予防のサポーター要請講座、こういうものな
どを企画しております。それで、こちらの会議室も年間通してお話をさせていただ
いて会場を借りたり、共同ということで観光プロジェクトという練馬区から発信さ
れているフレイル予防の講座なども企画したりということにつながっているとい
うところです。なので、そういう共同事業というのは、今年度は2回、あとはこれか
ら認知症サポーター養成講座もありますし、そのような形でつながっているとい
うことです。すみません、短いですが。

図書館：ありがとうございます。では、お時間となりましたので、これで利用者懇談会を終
了させていただきます。本日は貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。
春日町図書館の運営、サービス向上に努めてまいります。本日はご参加いた
だきまして、ありがとうございました。